

令和4年度博物館総合評価 博物館評価 事後評価結果（概要）

番号	項目名	主な事業	一次評価	二次評価
1	資料の収集・保存	資料の収集 収集した資料の保存 収集資料の利用（資料の熟覧、出版物等への掲載、貸借）への対応	A	A
2	展示	総合展示室の運営 企画展示の開催（企画テーマ展、特別展等）	A	A
3	調査研究	研究プロジェクトの企画・推進（道費による研究課題のほか随時外部資金による研究課題に取り組む）	B	B
4	北海道開拓の村の整備	北海道開拓の村の歴史的建造物の補修工事計画・メンテナンス実施 北海道開拓の村の歴史的建造物の内部展示及び展示資料の管理・充実	B	B
5	教育普及事業	教育普及行事（イベント）の実施 学校等の団体受入、展示解説の充実 はっけん広場（体験学習室）の運営	A	A
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	学校等との連携の連携・利用促進の強化（学校等との連携を担う人材育成：関連する内容の研修会への職員派遣等）	A	A
7	施設及び周辺環境の整備	館内施設の整備、館内施設の活用（屋上スカイビュー特別開放等） 周辺環境の整備 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	A	A
8	広報	誘客促進、理解促進に向けた情報発信、取材対応、講師等派遣（他機関との連携、海外向け情報発信、修学旅行誘致等を含む） 広報誌・行事案内、展示会のポスター、チラシ等の発行と配布	A	A
9	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	博物館事業に対する評価の実施 北海道立総合博物館協議会の開催 利用者満足度等の各種調査	A	A
10	道民参加の推進	「道民のための博物館」を目指した道民参加型活動の企画・推進	B	B
11	博物館ネットワーク	北海道の中核的博物館としての事業（北海道博物館協会事務局、日本博物館協会支部長館等） 各種博物館団体との連携、博物館交流の促進（周辺施設とのネットワーク事業）	A	A
12	情報発信	収集資料情報システム（収集資料データベース）の管理・活用 図書室の運営 レファレンス（利用相談、各種問い合わせ）対応	A	A
13	人材育成機能の強化と社会貢献	当館職員の各種研修派遣、館内研修等の実施 博物館実習の実施、インターンシップ等の受入れ 職員の対外貢献（依頼講演、地域支援、他機関の委員就任、執筆依頼等）	B	B
14	研究成果の発信	研究成果をまとめた学術刊行物（研究紀要等）等の刊行 学会への発信（学会発表、学会誌投稿）	A	A
15	アイヌ民族文化研究センターの事業	アイヌ文化に関わる理解促進、文化振興等のための調査研究とその成果の普及 アイヌ文化に関わる学術情報の集約と発信・研究支援	A	A
16	4つのビジョン（重点目標）	北海道博物館の「4つの使命」「基本的運営方針」に基づく、博物館全体として取り組む事業 ・「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた、文化観光拠点計画の策定・認定申請 ・ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携 ・樺太連盟からの資料移譲等にもとづく樺太記憶継承事業の実施	A	A

【評点】 A＝計画どおり又は計画以上に達成、B＝概ね計画どおり達成、C＝計画どおり達成されていない

令和4年度 北海道博物館 主な事業実績

1 資料の収集・保存

- ・資料の収集・整理・保存に関する諸活動、資料の利活用申請への対応を随時実施した。
- ・令和3年度末に収蔵庫・展示室等の空気環境の測定・記録装置を更新し、24時間を通した温湿度の変化をより正確に把握することが可能となった。(令和4年度から本格運用)
- ・【重点項目】全国樺太連盟からの寄贈資料については、受入資料のリスト化を進めた。

2 展示

- ・企画展示を計画どおりに実施した。
 - ※ 第19回企画テーマ展「アンモナイトと生きるー50年の歩みとこれからー」
会期：2022年2月19日(土)～5月22日(日) 開館日数52日 観覧者数：9,793人
 - ※ 第8回特別展「世界の昆虫ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー」
会期：7月23日(土)～9月24日(日) 開館日数56日 観覧者数：59,554人
北海道博物館開館以降の特別展として最大の来場者を得た。コロナ対策も兼ねた総合展示室・特別展示室の動線の一本化等の新たな試みに取り組んだ。多客時は来館者による待機列が各所に発生したが、その経験を次年度の特別展運営に反映させることとした。
 - ※ 第3回蔵出し展「久保寺逸彦文庫ーアイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐるー」 会期：10月29日(土)～1月15日(日) 開館日数61日 観覧者数：6,838人
 - ※ 第20回企画テーマ展「もっと！ あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」
会期：2022年2月19日(土)～5月22日(日)
- ・【重点項目】総合展示の小規模改訂計画を策定し、文化庁補助事業「文化観光拠点計画」の一環での実施を目指した。「文化観光拠点計画」は不採択となったが、コロナ対策事業(展示のデジタル化の促進)に即した改修を実施した。(総合展示2階 映像コーナーの機器更新 等)

3 調査研究

- ・ロシア(サハリン州)、カナダ(アルバータ州)の博物館との海外交流は再開できなかった。
- ・その他の館内研究プロジェクト(道費によるもの)、外部資金(日本学術振興会科学研究費等)による研究プロジェクトを随時実施。

4 北海道開拓の村の整備

- ・旧小樽新聞社・旧近藤染染舗の大規模改修工事(建物全体の劣化・破損部分の改修)を実施。
- ・旧ソーケシユオマベツ駅通所及び旧平造材部飯場老朽度調査を実施。

5 教育普及事業

- ・普及行事を計画どおりに開催。(年間62回の行事を開催、参加者合計2,159名)
- ・感染症拡大防止対策の緩和により、休止中の普及事業や展示解説を段階的に拡大した。
 - ※はっけんイベント(手軽なものづくり体験)の試験的再開、展示解説(多言語による音声ガイド)の運用再開 等

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ・関連研修会(文化庁主催)への職員派遣(1回)のほか、企画展に関する館内研修(8回)を実施。
- ・学校利用促進のための事業の一部(学校向けワークシートや利用ガイドの改訂等)は未実施。

7 施設及び周辺環境の整備

- ・館内施設及び周辺環境における、ユニバーサルデザインも含めた取組・サイン作成は未実施。

8 広報

- ・企画展、普及行事等の広報（取材対応、マスコミに対する投げ込み、ポスター・チラシ作成、SNS 運用 等）を計画どおりに実施。
- ・広報誌『森のちゃれんがニュース』を年度計画どおりに発行（年間 4 回）。
- ・他機関と連携した広報活動を実施（厚別区のホテルエミシアが展開する SNS で総合展示を紹介）。
- ・海外に向けた積極的な情報発信の検討は未実施。

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・展示会に関するアンケートを計画どおりに実施。
- ・北海道立総合博物館協議会を開催（年 2 回 + アイヌ民族文化研究センター専門部会 1 回）
- ・【重点項目】オーディエンスリサーチ（対面を含む来館者動向調査）は検討にとどまった。

10 道民参加の推進

- ・前年度からの継続事業を実施（道民参加型学習サークル活動「ちゃれんが古文書クラブ」、道民参加型展示 等）
- ・図書室支援員による活動（退職した解説員有志による図書の登録・整理等）を段階的に再開。
- ・【重点項目】新規の道民参加型活動の検討・推進については、未実施となった。

11 博物館ネットワーク

- ・北海道博物館協会の事務局としての業務を計画どおりに実施。
- ・かるちやる net 事業（広報チラシ「かるちやる通信」作成等）を実施。

12 情報発信

- ・自然史標本データ共有ネットワーク（国立科学博物館運営）等の他機関の資料データベースとの連携・情報提供を進めた。
- ・図書室の運営（企画テーマ展及び特別展関連図書の展示等を含む）を計画どおりに実施した。
- ・【重点項目】資料情報のアーカイブ化に向けた取り組みとして、収蔵資料データベースに 426 件を追加登録し、当館ウェブサイト上に 258 件を追加で公開した。

13 人材育成機能の強化と社会貢献

- ・博物館実習・インターンシップ等の受入を計画どおりに実施。
- ・職員の対外貢献（招待講演等）が目標値を大きく超えた（目標年間 70 件→実績値 160 件）。
- ・外来研究員制度の検討は未実施。
- ・【重点項目】学芸職員の育成・資質向上のための中長期的計画の検討は未実施。

14 研究成果の発信

- ・『北海道博物館研究紀要』第 8 号、『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 8 号を計画どおりに刊行。

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

- ・アイヌ文化の理解促進を目的としたアイヌ文化巡回展を地域との連携により実施。
第 12 回アイヌ文化巡回展（9 月 3 日、釧路町）（協力：公益社団法人北海道アイヌ協会）
第 13 回アイヌ文化巡回展（9 月 17 日～11 月 27 日、伊達市）（共催：伊達市教育委員会）

16 【重点項目】4 つのビジョン

- ・文化観光事業「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」（令和 4 年度～令和 8 年度）を文化庁に申請した。申請は不採択となったが、既決予算で総合展示の部分改訂や解説の充実を進めた（壁画「開拓」について解説コンテンツ等を制作）
- ・北海道博物館展示案内『北東アジアの十字路』（日本生命財団出版助成）を刊行。